

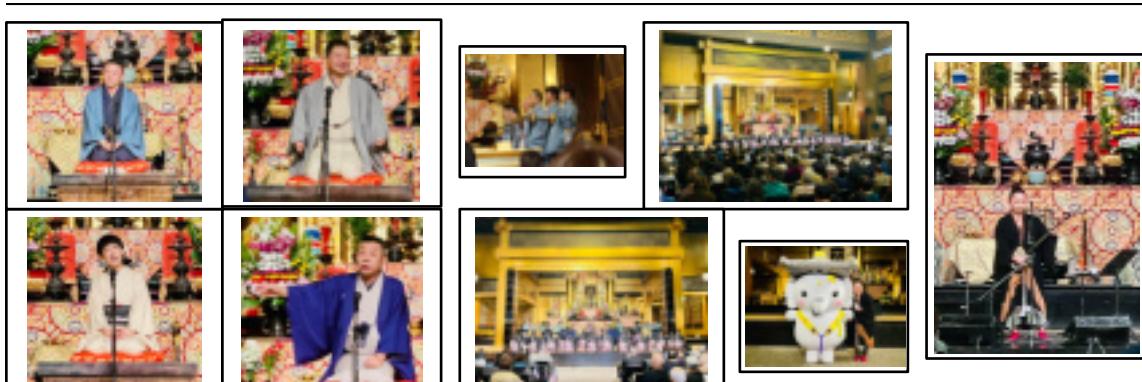
十一月十一日から十六日まで本願寺津村別院で報恩講法要、並びに「親鸞聖人御誕生850年、立教開宗800年慶讃法要」がおつとまりになりました。親鸞聖人の慶讃法要も兼ねてますので、法要やご法話は当然のことですが、落語やコンサートなどの記念行事も盛大に行われました。住職も法要での結衆（念佛頭）や奏楽員で出仕をさせていたときました。

さて、最終日のご満座はご門主さまが御出座されての報恩講法要でした。『報恩講私記・嘆徳文』をご拝読いただき、その後にご親教（ご法話）がありました。その中で津村別院ができるまでの歴史をお話しくださいました。浄土真宗の本山

本願寺津村別院 報恩講法要

である本願寺は今では京都にあります。第八世蓮如上人の時代には近江（滋賀県）や吉崎（福井県）を経て京都の山科が本願寺でした。蓮如上人はご子息の実如上人に本願寺を委譲した後の隠居所として大坂石山（今の大坂城の場所）に大坂御坊を建立されます。ところが法華一揆により山科本願寺が焼失し、本願寺は大坂に移りました。それも長くは続きませんでした。織田信長との約十年間の報恩講法要でした。

一五九一年に本願寺は現在の京都堀川の地に移転します。その後、残された大坂の門徒たちによって天満の近くに集会所ができ、それが津村別院の始まりとされています。一五九七年に現在の本町、津村の地に移転し、空襲による焼失もありながら、今に続いているそうです。一五九七年に現在の本町、津村の地に移転し、空襲による焼失もあらながら、今に続いているとのことです。



じゅこう

第80号
(通算420号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山淨覺寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

淨覺寺ヨガ教室

- ・12月17日(水)
10時～11時半
・参加費500円

淨覺寺雅楽教室

- ・12月23日(火)
19時～20時半
・参加費1000円

淨覺寺ピアノ教室

- ・12月(金曜日)
5、12、19日

如來の大悲に生かされて
御恩報謝のよろこびに
南無阿弥陀仏を称えつ
る眞実の道を歩みます
「淨土真宗の教いのよろこび」



御文章に聞く(第73回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

当流聖人章（五帖第十八通）
あんじん

当流聖人の・すすめます安心と
いうは、なにのようもなく・まず、
わが身のあさましき罪のふかきこと
をばうちして、もろもろの雜行雜修の
ところをさしあきて、一心に阿弥陀如來後生たすけたまえと・一念に
にふかくたのみたてまつらんものを
ば、たとえば・十人は十人・百人は
百人ながら・みなもらさずたすけた
まうべし、これさらに・疑うべからざるものなり、いかようによくこころ
えたる人を・信心の行者というなり、
さてこのうえには・なおわが身の後
生のたすからんことの・うれしさを
おもいださんときは、ねてもさめ
ても・南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
と・となうべきものなり、
あなかしこ あなかしこ

今回も御文章（蓮如上人からのお手紙）を味わっていきたいと思ひます。中国の善導大師は、「雜行」に対する言葉である「正行」を、読誦正行、觀察正行、礼拝正行、称名正行、讚嘆供養正行の五種に開かれました。それは阿弥陀仏に関する經典『淨土三部經』を読誦して、阿弥陀仏とその淨土を觀察（心に想いうかべ）し、阿弥陀仏を礼拝し、阿弥陀仏のみ名を称え、阿弥陀仏を讚嘆し、供養したてまつること。それが阿弥陀仏の淨土を願う者の正当な行であると明らかにされたのです。それに対して「雜行」とは、阿弥陀仏の淨土を願う者が、阿弥陀仏以外の、例えば薬師如来や不動明王に關する經典を読み、そのみ名を称え、それらの仏さまを讚嘆し、供養して阿弥陀仏の淨土への往生を願つても、その行為 자체は悪いことではありませんが、阿弥陀仏の淨土に対しでは、正当とはいえないことを「雜修」といわれたのです。

編集後記

取り入れる必要があるのかもしない。

浄覚寺の公式LINEにぜひ登録ください
デジタル「じゅうり」をお届けします。



佛教語辞典



誰かをさとらせたり、自分のうちにある仏性を開くことをいう。それは、自己中心的な視点から一步外へ出たことともいえる。現在は「かいはつ」と読むようになり、豊かな生活を得るために常に開発が行われている。しかし、それで豊かになつたかといえば一概にいえず、争いは消えず、弱虫や格差は相変わらず生み出されている。そろ「かいはつ」の精神を

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストと
わかりやすい言葉で読み解かれてい
ます。ぜひお買い求めください。

行事案内

日時・十二月二十一日(日)

元亨
通志

(なお、当口のお参りせお休みをさせたいただきます)

・令和八年元日会法話寺田西(祝)覚水先生

・令和八年一月十一日(日)十四時より
争覇寺ム教帰人会総會(会員のみ)

1月

今月も「じゅこう」をお届けいたします。
先日、山口県萩市にある親戚のお寺で本堂・山門
が修復された落成慶讃法要に出仕してきました。二
百十七年ぶりの大改修とのことで、足掛け三年とい
う大工事を経て、見違えるような伽藍が完成してお
りました。法要後の式典では、住職をはじめ寺族が
前に並び、厳しいご時世の中、多大なる御懇念を賜
り有難うございました、とのご挨拶がありました。
それに対しても総代からの返礼があり、私たちのお
寺のために、気苦労をお掛けしました。本当に有難
うございました、と皆そろって頭を下げておられま
した。ご法義に篤い、嬉しい雰囲気でした。

